

I 令和2年度事業運営の特徴と課題

1. 各介護保険事業の状況

(1) 特別養護老人ホームの利用状況

稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均 (月平均 人数)
介護老人福祉施設 定員 80 名	97.0	97.1	96.6	96.0	97.3	94.7	97.5	98.4	97.4	98.1	98.1	97.6	96.6 (2350.6 人)
短期入所生活介護 定員 20 名	90.0	83.9	91.0	94.0	102.9	103.5	95.3	93.5	94.0	101.6	107.7	106.9	94.4 (574.3 人)
特養 計 定員 100 名	95.6	94.5	95.5	95.6	98.4	96.5	97.1	97.4	96.7	98.8	100.0	99.5	96.2 2845.9 人
												前年比	-2.3%

*特養年間稼働率は前年より、1%増の96.6%とコロナ禍の中で安定した稼働を維持できました。
短期入所生活介護年間稼働率は前年より、コロナ禍の中での利用控えの影響はありましたが、年度後半では稼働率100%となりました。特養・短期入所合計では前年比2.3ポイントの減になりました。

(2) 在宅サービスセンターの利用状況

稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均 (月平均 人数)
通常型通所介護 定員 30 名	70.4	63.7	73.3	77.7	74.6	72.4	83.8	82.8	80.7	76.9	74.7	72.1	75.3 (585.5 人)
認知症型通所介護 定員 10 名	33.1	35.4	39.2	42.6	43.1	37.7	41.1	44.4	36.7	40.8	38.3	36.7	39.1 (101.3 人)
通所 計 定員 40 名	61.1	56.6	64.8	68.9	66.7	63.8	73.1	73.2	69.7	67.9	65.6	63.2	66.2 (686.3 人)
												前年比	-12.6%

*年間稼働率は、通常型通所介護が前年より、15ポイント減の75.3%
(月平均利用人数585.5人/1日平均利用人数22.6人)
認知症型通所介護が前年より4ポイント減の39.1%
(月平均利用人数101人/1日平均利用人数3.9人)
通所合計が前年より12.6ポイント減の66.2%となりました。

(3) 介護老人福祉施設事業の状況

港区の指定管理者として平成28年度から5年間の指定を受け、その最終年度の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、1年延長となりました。

サービスの提供はご利用者の個性や価値観を尊重し、個々の能力に応じた生活が営めることを目標としました。そのために、安全で快適な施設生活が送れるよう、ご利用者一人ひとりの状態に合わせたサービスの提供に努めました。看護師の夜間配置により、胃ろう等の医療的ケアを必要とする要介護者を積極的に受け入れました。重度の認知症により特別な見守りが必要なご利用者が落ち

着いて過ごせるよう、専用スペースを設け専属の職員がケアを行いました。また、嘱託医との連携により 14 件の看取り介護を実施しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止（以下、感染症対応）の観点から、今年度は外出を控えました。施設内で行事を工夫し、テイクアウトを利用することで、普段の食事とは違うメニューや雰囲気の中で、食事を楽しんで頂ける機会を多く提供しました。

地域との連携については、感染症対応からボランティアの方の受入を控えました。例年地域の町会、商店会、警察、消防、関係団体など幅広いメンバーで構成する「地域懇談会」も書面での開催、また地域の協力を得て実施していた納涼祭も中止しました。令和 3 年度は、コロナ禍での新しい地域交流の形を作っていきます。

(4) 短期入所生活介護事業の状況

ご利用者の心身の機能の維持並びにご家族の身体的及び精神的な負担の軽減が図れるよう、毎日のレクリエーション活動の充実を図るとともに、医療的ケアが必要な利用者を積極的に受入れるなど、できる限りご希望に応じたサービスの提供に努めました。年度当初は、昨年度末からの新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の影響により、短期入所生活介護の利用控えが見られました。特に感染拡大第 1 波である

4 月～5 月、その後の第 2 波である 11 月～12 月には、その影響が顕著にみられましたが、年度後半では稼働率 100%を維持しました。

(5) 通所介護事業・認知症対応型通所介護事業の状況

デイサービスのご利用により、ご利用者の心身の安定、機能の維持そして、ご家族の身体的及び精神的な負担の軽減が図れるよう、サービスの提供に努めました。

感染症対応として、ご利用者テーブルに飛沫防止ボード設置、送迎車内の飛沫防止シート設置、少人数個別活動の取り組み等を実施しました。

事業全体では、新型コロナウイルス感染症の影響から、利用中止や利用控えの影響が顕著に見られ、開設以来最も低い稼働率となりました。令和 3 年度は、介護報酬改定を踏まえ ADL 維持等の数値化を行うなど、個別機能訓練の一層の充実を図り、ご利用者の在宅生活の維持を目指します。

(6) その他

東京都が開催する認知症の専門研修を受講した職員が中心メンバーとなる「認知症介護プロジェクト」を実施しました。認知症状があり、自身の思いである「～したい」「～してほしい」が言葉で上手く表現できない利用者の真の思いに寄り添える職員を目指すべく、勉強会の内容を委員会で検討し、職員全員対象の勉強会なども行いました。また、その思いを引き出すためのアセスメント方法を委員会にて引き続き検討しています。

2 港区からの受託業務等の状況

(1) 港区立特別養護老人ホームサン・サン赤坂の管理運営に関わる業務

港区の指定管理者として、港区立特別養護老人ホームサン・サン赤坂の管理運営に関わる看護に関する業務、介護に関する業務、その他複合施設であることによる建物管理等の業務を行いました。

(2) 港区立高齢者在宅サービスセンターサン・サン赤坂の管理運営に関わる業務

港区の指定管理者として、港区立高齢者在宅サービスセンターサン・サン赤坂の管理運営に関わる入浴に関する業務、送迎に関する業務、その他調理委託等の業務を行いました。

(3) 港区高齢者集合住宅の生活協力員業務

港区から委託を受け、港区立はなみずき白金等 4 か所の港区高齢者集合住宅の生活協力員業務を行いました。